



KAKEHASHI プロジェクト（派遣プログラム） （派遣国：米国、一般派遣第3陣（HAND IN HAND 高校生））の記録

1. プログラム概要

「対日理解促進交流プログラム」の一環として、米国へ名取こどもミュージカル所属の高校生 18 名が派遣され、日本の政治、社会、歴史及び外交政策に関する理解促進や、日本の魅力等の積極的な発信を目指し、平成 28 年 3 月 24 日から 3 月 31 日までの 7 泊 8 日の日程でプログラムを実施しました。また、プログラム後半では、東日本復興支援プロジェクトである HAND IN HAND の 5 周年記念ニューヨーク公演に参加しました。

2. 参加団体・人数

名取こどもミュージカル所属高校生 18 名

名取こどもミュージカル所属引率者 3 名

3. 訪問地

米国（ニューヨーク 21 名）

4. 日程

3 月 24 日（木）成田国際空港より出国、ニューヨーク着

【市内視察】Times Square

3 月 25 日（金）【交流】メトロポリタン・ホスピタル・センター

【視察】メトロポリタン美術館

【視察】セントラルパーク

3 月 26 日（土）【歴史文化視察】セント・ジョン・ザ・ディヴィアイン大聖堂

【視察】コロンビア大学キャンパス

【ハンド・イン・ハンドプログラム】リハーサル

3 月 27 日（日）【視察】イースターパレード（5 番街）

【視察】9.11 メモリアルミュージアム

【視察】スタテン・アイランド・フェリー（地元公共交通機関）

【ワークショップ】

3 月 28 日（月）【ハンド・イン・ハンドプログラム】

【学校交流】カレッジ・オブ・ニュージャージー（TCNJ）

3 月 29 日（火）【市内視察】ハミルトンパーク（Weehawken）

【ハンド・イン・ハンドプログラム】NY 公演

3 月 30 日（水）ニューヨーク発

3 月 31 日（木）成田国際空港 帰国

5. KAKEHASHI Project プログラム記録写真 米国派遣第3陣の記録



3/25 【交流】メトロポリタン・ホスピタル・センター日本と東日本大震災復興についての発表



3/25 【交流】メトロポリタン・ホスピタル・センター名取こどもミュージカルパフォーマンス発表



3/25 【交流】メトロポリタン・ホスピタル・センター



3/25 【視察】セントラルパーク



3/27 【視察】イースターパレード



3/27 【ワークショップ】アクションプラン発表

	
3/28 【学校交流】 カレッジ・オブ・ニュージャージー キャンパスツアー	3/28 【学校交流】 カレッジ・オブ・ニュージャージー名取こどもミュージカルパフォーマンス
	
3/28 【学校交流】 カレッジ・オブ・ニュージャージーレセプションパーティ	3/29 【市内視察】 ハミルトン・パーク (Weehawken)

6. 参加者の感想

◆高校生

私は、今回の訪問を通してどれだけ自分が閉鎖的であったか痛感しました。様々な人種が生活しているアメリカでは、私たち日本人も特別な存在ではなく、当然英語を話せるものとして扱われました。英語は、ただの「受験科目」なのではなく、生活様式、考え方の違う国に住む私たちがコミュニケーションを図るツールの一つだということを実感しました。

また、日本が衛生面やサービス精神においてどれだけ優れているのか改めて感じました。今回の訪問は、いままでの考え方を改める本当に良い機会であり、自分の将来や進路を考える上で新たな選択肢を取り入れることもできました。

◆高校生

今回、HAND in Hand プログラムと KAKEHASHI でアメリカ、ニューヨークに行くことができ本当にうれしかったです。KAKEHASHI では、アメリカの人々に日本の魅力を伝えるという目標がありますが、私たちは、J-POP のグループで日本の「かわいい文化」をパフォーマンスで表現できたかと思います。アメリカ、特に NY はたくさんの国の人がいて、英語だけでない他の国の言語も話せる人が多いと聞きました。でも私は、日本語以外の言葉を全然話せませんでした。買

い物や交流の場面で聞き取れない部分が多くとても後悔したので、まずはもっと英語を頑張ろうと思いました。

また、当時の歴史を知ることのできる大聖堂や 9.11 メモリアルへの訪問も印象に残っています。特に 9.11 メモリアルミュージアムでは、ツインタワーの鉄骨など当時のものがそのまま展示されていて、アプリで説明を聞くたびに心が痛くなりました。そしてそれをきちんと残しておく人々はすごいと思いました。

ワークショップで、私たちのグループは、海外に日本を伝える前に自分たちが日本を知るべきという考えに至りました。私は将来何らかの形で海外にかかわる仕事をしたいと思っているので、他にも同じような希望を持っている人に向けて、日本と海外について考えるよう伝えたいと思います。

◆高校生

外国の方と交流する際に一番大事なことは、積極的な気持ちを持つことだなと感じました。相手のことを知りたいという思いを忘れないこと。また、相手の国の文化によっては、自分が当たり前だと思っていることが、相手はそう思っていないこともあると思いました。

また、さらに大事になるのは言語力だと思います。学校で学んだことも含め、それを現地の国で“読む、聞く、話す”を最大限に生かせるとうよいと思います。個人でできることもたくさんありますが、実践の場をより多く持つことが大切だと実感しました。英語をはじめ外国の言葉を用いて、コミュニケーションできるよう私自身も頑張ろうと思います。

◆高校生

カレッジ・オブ・ニュージャージーを訪問し、合唱の合同練習で自己紹介をするとき、私は大学生の皆さんとの年齢の差を考え心配していましたが、そんな気遣いは全然関係なく楽しく会話することができました。日本だったら、大学生に向かって敬語を使いどこかよそよそしい雰囲気が出てしまって全く違っていただろうと思い、英語には敬語がないということがこのような場面では良い面だと思いました。

また、9.11 メモリアルミュージアムにいったことも強く覚えています。9.11 については、教科書やテレビでの特集番組で見たことがある、知っているという程度でしたが、実際にホールに展示されている崩れた階段やつぶされかけた柱、消防車、また犠牲となってしまった方々の顔写真などを見たとき、どれだけ大きな出来事であったかということを初めて知りました。それと同時に、東日本大震災についても同じような施設を設けることで、写真や画像を通してしか知らなかった人たちにも新たに様々なことを感じられる機会になるのではないかと思います。そして、9.11 については、同世代の人たちにも 9.11 メモリアルミュージアムへ行き、自らの目で起こった出来事を見ることを薦めたいと思います。

7. 参加者の発表内容・気づきとアクションプラン

 3・11 Great East Japan Earthquake	
東日本大震災についての発表 A グループ：日本のおもてなし精神、礼儀正しい、気配り、日本文化の多様性・魅力(日本の伝統、昔からの習慣) B グループ：日本食の素晴らしさ、日本人の丁寧な文化、日本を訪問者の多さ、日本の団体行動、トイレの使いやすさ、品質の良さ、環境の美しさ C グループ：街がきれい、衛生教育、道徳的レベルの教育が幼いころからされている、協調性、サービス精神、質の高さ、思いやり、職務上、与えられた一翼を担う意識が高いこと	震災後復興の状況 A グループ：積極性が高い、人目を気にしない、日本の文化に興味がある人が多い(日本人はアメリカの文化に興味がある人が少ない、アメリカについて知っているつもりでいる) B グループ：アメリカ人の礼儀(挨拶が良い)、フレンドリー、素直、芸術面でオシャレ、時間にルーズ、9.11を観光地にするすごさ(文化・歴史を形に残している) C グループ：アメリカでは「個」がはっきりしている、宗教・政治に対する関心・意見を各自持っている、人種のサラダボウルだからこそ互いの対応がある、発言をする・受け入れる対応が整っている
日本の魅力に関して気付いたこと	アメリカに関して気付いたこと
A グループ： (1) タイトル：「アメリカをもっと知ろう」 (2) 発信内容：アメリカは思っているより大雑把 ：日本の丁寧さ、住みやすさが分かる (3) 理由：私たちはアメリカについて分かっているつもりだったが、実際は新しく気付くことが多かった。 (4) 対象：日本人、アメリカ人 (5) 発信手段：TwitterなどのSNS	B グループ： (1) タイトル：「自分たちを知る」 (2) 発信内容：①日本食(栄養バランス・作り方) ②品質(品質表示：MADE IN JAPAN) (3) 理由：①アメリカで健康意識が高まっている ②メイド・イン・ブランドがなくなりつつあるから (4) 対象：友人・知人(日本)、アメリカ人(海外) (5) 発信手段：TwitterなどのSNS
アクションプラン (A グループ)	アクションプラン (B グループ I)
B グループ： (1) タイトル：「アメリカ人を知る」 (2) 発信内容：①アメリカでの体験、現地で交わした会話 ②アメリカ人の素直な感情表現を受けた体験・その背景 (3) 理由：①アメリカ人はフレンドリーで外国人に話しかけてくれる ②アメリカ人の素直な感情表現が特に印象強く残ったから (4) 対象：友人・知人(日本) (5) 発信手段：TwitterなどのSNS/掲示物/報告会等	C グループ： (1) タイトル：「日本の魅力発信」 (2) 内容：サービスの充実・提供 (3) 理由：サミット・オリンピック等で外国人が多く訪日するから/ツールとして英語を使う機会が少ないため (4) 対象：日本を訪れる外国人 (5) 手段：①日本人留学生が日本の魅力を発信(留学生との交流) ②学校・企業単位で企画して実施
アクションプラン (B グループ II)	アクションプラン (C グループ)